

カントルと能

大谷大学真宗総合研究所一般研究
タデウシュ・カントルの演劇と能における死の表象の
精神分析理論による考察



番場 寛（大谷大学国際文化学科教授）の研究成果報告
河村晴久（能楽師・同志社大学客員教授）の講演

すでに京都と東京で数回開催された「カントル研究会」においてタデウシュ・カントルの劇と能との類似性を指摘する意見が出されました。恐らく影響関係はないと思われる、一見全く異なった二つの舞台芸術において、それでも類似性を感じてしまう人は少なくないのはなぜでしょうか？

二つの様式の類似性に着目するにせよ、差異に着目するにせよ、「死の表象」をこの二つの舞台様式において考察することは、それぞれの様式の素晴らしさの再発見に繋がるのではないかと思います。

- 1 番場 寛：タデウシュ・カントルの劇作品における
「反復」と「死の表象」について (35分)
- 2 河村晴久：能における「死の表象」
葵上・清経・善知鳥を中心にした実演を交えた説明 (45分)
- 3 ディスカッション (10分)

日時：2015年12月21日（月）18時～19時30分

場所：大谷大学響流館3階、メディアホール
京都市営地下鉄「北大路駅」出口⑥より5分
(入場無料、先着100名、事前申込不要)

お問合せ：番場 寛 164bamba@gmail.com